

「百人一首の月の歌を味わおう」

1 年()組()番 名前()

< 共通点 >

7 番	天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠（みかさ）の山に いでし月かも 安倍仲麿（あべのなかまろ。698 年～770 年）	大空をはるかに仰ぎ見れば、月が出ている。あの月は昔、故国の春日にある三笠山の上に出ていたのと同じ月なのだなあ。	< 相違点 > 歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い
30 番	有明（ありあけ）の つれなく見えし 別れより 暁（あかつき）ばかり うきものはなし 壬生忠岑（みぶのただみね。生没年未詳）	有明の月は冷ややかでつれなく見えた。あの明け方の別れのとき以来、暁（あかつき）ほどつらく悲しく思われるものはありません。	< 相違点 > 歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い
36 番	夏の夜は まだよひながら 明けぬるを 雲のいづこに 月やどるらむ 清原深養父（きよはらのふかやぶ。生没年未詳、10 世紀前後）	短い夏の夜は、まだ宵のくちだと思っているうちに明けてしまったが、月は今ごろ雲のどこのあたりに隠れて宿っているのだろうか。	< 相違点 > 歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い
79 番	秋風に たなびく雲の たえ間より もれ出づる月の 影のさやけさ 左京大夫頭輔（さきょうのだいぶあきすけ。1090 年～1155 年）	秋風に吹かれ、たなびく雲の切れ目から、洩れてくる月の光の、なんと明るく澄みきっていることよ。	< 相違点 > 歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い